

「日本一、世界一をめざして」

最近、「スーパーパティシエ物語」(岩崎書店)と「加賀屋の流儀」(PHP研究所)が出版されました。

1冊は、七尾出身のケーキ職人辻口博啓氏が世界一のパティシエになる夢を胸に七尾を旅立ち、その夢をかなえ、さらに大きな夢を描きつづける青年の生き方を著したものだ。(世界一になりたい人の読む本)

もう一冊は、創業100年を迎えた加賀屋が、「プロが選ぶ日本のホテル旅館100選」で26年続けて日本一の座を維持し続けてきたものは何なのか、極上のもてなしとは何なのか、に迫った人間物語です。



市長 七尾市元 平 文 武

七尾が生んだ世界一と日本一の物語を読みながら、辻口博啓氏と小田禎彦氏(加賀屋の人たち)の並外れた「志の高さ」と先見性、人に感動を与える行動力に敬服します。

とかく、能登の人間は、進取の気性に乏しく保守的と言われ、また、自分が動かないで愚痴だけは一人前等とあまり評価されない面が多い。しかし、この二人は正反対の人です。夢に向かって、最高・最先端を目指して実直に邁進する。その実直さというか、手抜きをしない愚直さによって世界一や日本一になったのではないのでしょうか。

能登の人間のすばらしさを示してくれたこの2冊の本は、能登の人間に大きな元気を与えてくれます。

本物は必ず評価され、最後まで残る。天才は美しい自然や景観のあるところから生まれるといわれていますが、ここ七尾から長谷川等伯が生まれたことを想うと、七尾はそんな人材が育つ所のようにです。

「夢を育み」「高い志を支える」能登の風土がつけられ、能登から日本、世界で活躍する人材が育つことを期待しています。

市長へのメール「前略市長さん」(<http://www.city.nanao.lg.jp/shicho/index.html>)では、市民のみなさんからのご提言、ご質問などをお待ちしています。

市長談話室

開催日程

11月28日(火) 15:00~17:00

会場：田鶴浜支所2階第1会議室

※公務により、中止になる場合があります。

子どもからお年寄りまで、どなたでも談話できます。気軽に、市政に対する提言やアイデアをお聞かせください。

お申し込み・お問い合わせは
男女参画まちづくり課

53-11112

※お申し込みは1週間前までにお願
いたします。また、お申し込み
多数の場合は、抽選になります。

国際交流 コラム

「中国結」について

七尾市国際交流員(中国)

韓 ソンファ
松花



中国伝統の結芸「中国結」は、十数年まえから日本、韓国、東南アジアの人々にも愛用されるようになり、総合して「アジア・ネット」と呼ばれています。

中国結びの歴史は、遠く「漢」の時代(約二千年前)までさかのぼります。近年発掘された漢代の壁画の中から発見された「双銭結」(あわじ結び)とそれに類似する「ポタン結び」が、現在のいわゆる中国結びの源流と認められています。

中国語の「結び」という言葉には、力、調和など情感にあふれる

意味合いがあり、「団結」「夫婦の契りを結ぶ」など、団らん・親密・暖かい人間関係などを表すときに好まれています。

中国結びは今、中国文化のかけがえのないものとなっています。中国では、正月、春節が近づくと、部屋の飾りやストラップなどが大人気です。12月1日には中国結びイベントがあります、みなさんも一緒に作って見ませんか？

